

猿渡整形外科スポーツ リハクリニック

猿渡整形外科
スポーツリハクリニック

野球による肘の痛み・野球肘検診のご案内

野球をしていて肘に痛みを感じる選手はとても多いです。小学生の頃から野球というスポーツを楽しみ、大きな夢も持ちながら一生懸命練習に励む少年ほど肘や肩に負担がかかり、痛みがやすい状態ともいえます。

ここで注意をしなければいけないのは、肘の痛みに限ってみても、あまり心配のないものから、放置しておくことで障害が残ってしまう可能性のあるものまでであるということです。大切なのは痛みが何かなを見極め、適切に対処することだといえます。肘の障害の中でも、とくに離断性骨軟骨炎は野球ばかりか、放置しておくことで日常生活に支障をきたすようになることもある障害として重要です。

この病気は肘の外側の軟骨の下の骨がはがれてしまうものです。この病気は、“沈黙の障害”ともいわれていますが、症状が強くでないわりに、病気のものがどんどん進行してしまう場合があります。

まだ**症状のない早期に発見できれば、90%が自然治癒**しますが、一定以上進行している場合は手術が必要な場合も多くなり、より完治が難しくなります。

早期に発見することは非常に大きな意味があります。エコー検査機器の性能の向上により、数分程度の検査で確実に発見することができます。この検査はレントゲン検査のように放射線の被曝もありません。

とくに離断性骨軟骨炎が最初におこってくる時期である**小学5年、6年生はとくに症状がなくても検診を受けることをお勧めいたします。症状がないうちに見つけることが大切です。**

ひとりでも多くの野球少年が、いつまでも健全に野球を楽しめる一助となるため、野球肘検診を実施しております。お気軽にお電話でお問い合わせください。



白い部分が病変

白い部分が減少

白い部分が消失

11歳ピッチャーの少年。離断性骨軟骨炎がみられたが適切な休養とリハビリテーションにて自然治癒し、完全復帰した。

- 費用：無料
- 目的：肘離断性骨軟骨炎の早期発見
- 対象：小学生、中学生 症状の有無は問いません。
小学校5、6年生の野球選手は症状がなくても検診を受けることをお勧めいたします。
- 日時：3ヶ月ごとに実施

※詳細はクリニックまでお電話にてお問い合わせください。

院長略歴

- ・ラサール高等学校卒業
- ・九州大学医学部卒業(平成8年)
- ・大分大学医学部付属病院
- ・福岡整形外科病院
- ・新潟中央病院新潟手の外科研究所(マイクロサージャリー研修)
- ・名古屋掖済会病院整形外科(手の外科)医長
- ・大分岡病院整形外科主任部長
- ・他研修

専門領域

- ・関節、手の外科、スポーツ整形

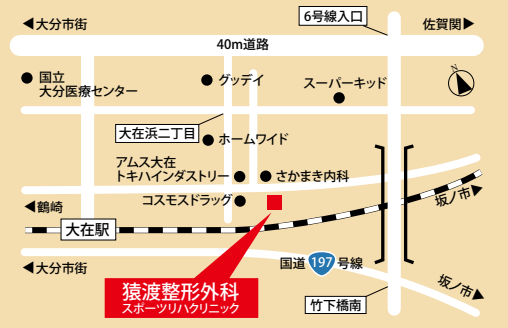
所属学会

- ・日本整形外科学会
- ・日本手外科学会
- ・整形外科スポーツ医学会、日本肘関節学会

資格、学位

- ・医学博士
- ・日本整形外科学会専門医
- ・日本手外科学会専門医
- ・日本整形外科スポーツ医
- ・認定運動器リハビリテーション医
- ・口コモアドバイスドクター

ご案内図



整形外科、リハビリテーション科、リウマチ科

猿渡整形外科
スポーツリハクリニック

大分市竹下2丁目126番地 TEL:097-593-0008

ホームページ求人情報も是非ご覧ください。

メールアドレス/info@sawatari-cl.com
ホームページアドレス/http://sawatari-cl.com/

診察時間	月	火	水	木	金	土
午前(9:00~12:30)	○	○	○	○ (13時まで)	○	○ (13時まで)
午後(14:00~18:30)	○	○	○	×	○	×

※日曜・祝日休診